

支援業務課 NEWS

肉用牛経営データベースがスタート

平成13年から県内の酪農経営者や関係機関で利用されている「酪農経営データベース」に続き、平成16年3月末より「肉用牛経営データベース」がスタートすることになりました。

加入することにより、日常の肥育牛管理や枝肉格付データ等の加工分析、さらには経営管理・分析等がパソコンで出来るようになりました。

概要は以下のとおりですが、加入申込みを受け付けておりますので、多くの方々からご参加頂けますようお願いします。

1. 肉用牛経営データベースの概要

これまで様々な畜産関係団体に分散していた各種の肉用牛情報を統合し、総合的な情報としてコンピュータネットワークを通じて迅速に提供するためのデータベースです。

(1) 肉用牛経営データベースに蓄積するデータ

- 以下の各種データが蓄積され管理されます。
 - ・全国肉用牛協会「経営実態調査データ」
 - ・家畜改良センター「個体識別データ」
 - ・日本食肉格付協会「枝肉格付データ」
 - ・畜産協会「経済データ」

2. 肉用牛経営データベースの機能とサービス内容

提供するシステムとサービス内容は以下の通りです。

(1) 肉用牛経営実態調査分析システム

- ・実態調査結果の閲覧
- ・検索集計分析の実施

(2) 肥育農場管理システム

- ・個体識別データ、枝肉格付結果データの取得
- ・農場管理、出荷分析等各種分析の実施

(3) 肉用牛経営分析システム

- ・経営の進行管理、経営成果の把握
- ・長短期的な経営予測

3. 肉用牛経営データベース加入費用

本事業で配布する分析プログラムを含め事業加入費は当面无償ですが、パソコンを利用してデータベースに接続する場合は以下の費用が必要となります。

- (1) NNCS加入費用（初回のみ）5,000円

- (2) NNCS請求書発行費用300円/月

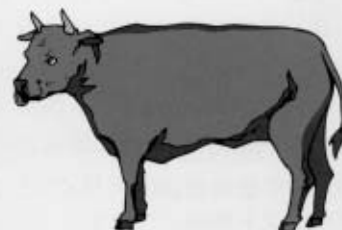
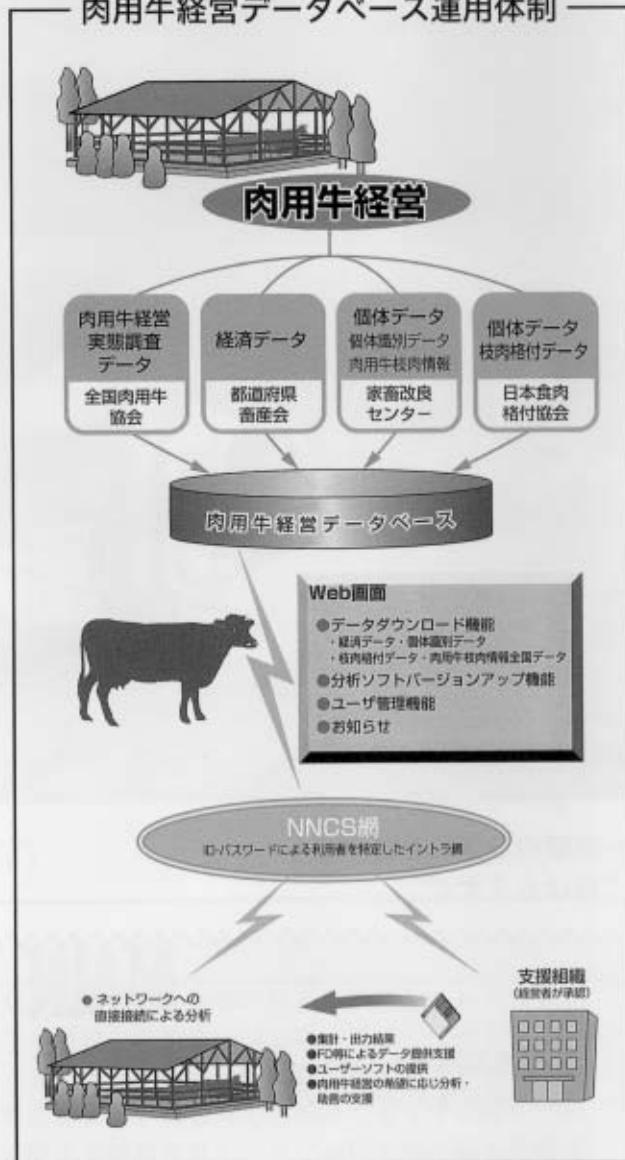
- (3) 認証時固定IPアドレス付与100円/月

- (4) NNCS接続費用600円～1,000円/月

4. 肉用牛経営データベース加入手続き

肉用牛経営者でパソコンを持っていない場合でも、支援組織が代行出力を行いますので、全ての肉用牛経営者、支援組織が加入できます。加入希望者は支援業務課までお問い合わせ下さい。

肉用牛経営データベース運用体制



事例紹介

有機質資源を活用した 資源循環型農業の確立

黒川村堆肥センター

黒川村堆肥センターの概要

- 1) 所在地 北蒲原郡黒川村大字宮久151
- 2) 事業名 資源リサイクル畜産環境整備事業
- 3) 敷地面積 9,773.28㎡
- 4) 延床面積 4,634.37㎡
- 5) 構造 鉄骨平屋建て
- 6) 処理能力 28.71t/日
発酵槽型式・スクープ式攪拌機

取り組みの経緯

家畜ふん尿処理の適正化と有機質資源を活用した資源循環型農業の確立を図り、農業振興に資するため堆肥センターを設置することとなりました。

処理方法

- ①家畜ふん尿・敷料と生ごみを運搬し、一台ずつ計量した後に原料置場に搬入します。この時、生ごみは細かく破碎されます。
- ②混合槽にて副資材のモミガラ・オガクズをホイローダで混合し、水分調整・配合を行います。
- ③発酵槽ではスクープ式の機械による攪拌と同時に、有機物の発酵分解に必要な空気を強制通気して好気性分解を促進して一次発酵させます(約15日間)。発酵槽にはカーテンが掛かっており、臭気の拡散を防いでいます。カーテン内で発生した臭気は捕集されてロックウール脱臭装置を介して大気拡散されません。
- ④養生槽では難分解性のものをさらに発酵分解させ水分の低下並びに粒状化を進展させるために、週1回の切り返しを兼ねて堆肥のマス移動を行います。粒度選別機により粒の大きさを揃えるとともに、異物の除去を行います。生産された堆肥は製品置場にてバラで売るもの、トンパック(1袋約330kg)で売るもの、袋詰め(20kg)で売るものに分けて保管されます。

導入効果

畜産農家が頭を悩ませていたふん尿処理問題、並びに一般家庭や食品・流通業者等から出る食品残渣を上手に利用しています。堆肥を新たな資源として活用しながら、循環型農業を確立し、安全で高付加価値農産物を産地化することにより、畜産の振興並びに農業全体の振興になると期待しています。

畜産経営者協議会の開催について

2月13日、県内の中核農業者20名とJA畜産担当指導員16名の出席のもと平成15年度の畜産経営者協議会を開催致しました。

①平成15年度畜産経営診断結果について

◎酪農経営(経産牛1頭当り)

分娩間隔	産乳量	体細胞数	販売価格	総原価
16.3ヶ月	8,036kg	459千個	107.3円	124.1円

分娩間隔が長くなり、体細胞が多くなった。

◎肉用牛経営

繁殖経営

飼料畑	分娩間隔	子牛販売率	販売価格	総原価
25.9a	13.1ヶ月	90.3%	427千円	454千円

肥育経営

枝肉重量	出荷月齢	4等級以上	販売価格	総原価
434kg	29.7ヶ月	67.2%	2,168円	2,110円

交雑種

枝肉重量	出荷月齢	3等級以上	販売価格	総原価
433kg	25.5ヶ月	28.4%	1,172円	1,121円

繁殖・肥育経営ともに、生産コスト、販売価格は大幅に上昇している。

◎養豚経営

1頭当り分娩子豚数	年間換算離乳子豚数	肉豚事故率	販売価格	総原価
11.2頭	21.1頭	6.5%	400円	416円

生産技術の低下もあり、また販売価格も大幅に下落した。

②畜産物の安全・安心に対する意識と対応③畜産環境保全の推進と課題につきましては、先に優秀畜産表彰を受賞された

・酪農経営 山之内浩一氏 北魚沼郡広神村

・肉用牛経営 菅原健一氏 村上市

・養豚経営 桜井富佐子氏 北魚沼郡広神村

に話題提供をしていただく予定でしたが、都合により、畜産協会の担当者がスクリーンを使って経営のポイントを説明いたしました。

④飼料用稲の収集と利用

岩船郡・荒川町イナワラ部会の活動について、酪農経営・斉藤和之氏より「耕畜連携による地域循環システムの確立」と題して話題提供をしていただきました。農協、町、普及センター等、地域ぐるみの協力があり土づくり体制を確立することができたことなど、他の地域の方にも見習っていただきたい点が多々あったと感じています。